

みる かたる つくる

2016 VOL.43
(通巻105号)



ART NEWS
千葉県立美術館報



津田信夫 《英雄闘志》

京都市美術館蔵



《日本橋橋上麒麟像》 ※パネルで紹介

開催概要

会 期 / 平成28年10月25日(火)～平成29年1月15日(日)
 開館時間 / 午前9時～午後4時30分
 (10月25日(火)のみ午前10時30分開場)
 休 館 日 / 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
 年末年始(12月28日～1月4日)
 入 場 料 / 一般500円(400円) 高校・大学生250円(200円)
 ()内は20名以上の団体料金。中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料
 ※文化の日(11月3日)は無料

展覧会概要

千葉県佐倉市に生まれた津田信夫【明治8年(1875)～昭和21年(1946)】は、工芸家、教育者、工房の親方としてとして多方面に優れた業績を残した、メタルアートの巨人です。

■工芸家として

装飾を抑え、形態が持つ美しさを追求した現代感覚溢れる作品を発表しました。留学先で見聞した諸外国の工芸の動向を踏まえながら、日本の工芸がどうあるべきかを模索し、帰国後は「簡素化」をキーワードに、簡略化された形態美という表現の可能性を提示し、日本の工芸発展を促しました。

■教育者として

東京美術学校(現：東京藝術大学) 鑄金科卒業後、母校で40年余指導を続け、この間、高村豊周、杉田禾堂など多くの逸材を育てました。津田の教えを受けた高村らは、「無型」と呼ばれる工芸団体を設立し、時代に

即した新しい工芸を提唱しました。

■工房の親方として

日比谷公園鶴の噴水、日本橋橋上の麒麟や獅子像、国会議事堂正面扉など、近代日本を代表する様々な鑄造物を手がけました。

東京美術学校は明治期より、教育活動とは別に、各機関からの依頼による「依頼制作」を請け負うことで、近代の大工房のような役割を果たしていました。津田は、担当者、経費、工期などを総括する親方(マイスター)として優れた業績を残しました。

この展覧会では、津田の初期から晩年までの金工作品に、陶器などを加えた約90点を、活動を共にした工芸家の作品と共に展示します。さらに国会議事堂の扉制作を始めとする依頼制作事業の詳細に関するコーナーを併設することで、メタルアートの巨人、津田信夫の業績を紹介します。

この展覧会では、津田の生涯を前期、中期、後期の3つの時期に分け、各時代の代表的な作品を、津田と関わった工芸家や教え子たちの作品と共に紹介します。

初期

東京美術学校卒業から留学までの時期で、卒業制作や大正期の作品などを、東京美術学校が注文を受けて行った、「依頼制作」と呼ばれる事業の概要と共に紹介します。

この時期の主な展示作品は、農展（農商務省美術展覧会）に出品された《壺形アラビヤ文青銅花瓶》です。高さが42.8cmもあり、津田が手がけた花瓶の中でも最大で、上部にアラビヤ文様を施しています。

中期

中期では、ヨーロッパ留学時代に焦点をあて、留学先のドイツやフランスから学校長に宛てた書簡や、スケッチブックに残された水彩画などの関係資料と共に、後の制作に強い影響を受けたフランスの彫刻家、フランソワ・ポンポンの作品などを紹介します。

ポンポンはロダンの助手などをつとめた経歴を持ち、滑らかな曲線を描く単純化された動物表現で高く評価されています。

後期

前半と後半の二つに分けて紹介します。前半では、帰国後してから帝展工芸部門設置までの活動を、後半では、昭和10年（1935）以降の活動を紹介します。

●前半

帰国後、津田が中心となって活動した、帝展（帝国美術展覧会）への工芸部門設置までの様子をパネルで紹介すると共に、津田の帝展出品作と、津田の影響を受けた教え子たちが結成した、工芸の美術団体「^{むけい}無型」の関係作家の作品を紹介します。また、この時期に依頼制作として担当した国会議事堂の正面扉群制作の概要を関係資料により紹介します。

●後半

後半では、主に津田の動物置物の作品を紹介します。ヨーロッパ留学を通して、装飾を抑え、形態が持つ美しさを追求した津田の現代感覚溢れる作品をお楽しみください。



津田信夫《青鸞献寿》
北詰コレクション

関連事業のご案内

美術講演会 ①

「最後のマイスター 津田信夫の依頼制作」

講師／千葉県立美術館 主任上席研究員 中松れい
日時／平成28年11月19日(土) 13:30～15:00
会場／講堂 定員／200名
聴講無料、先着順(当日12:30から受付)

美術講演会 ②

「津田信夫とフランソワ・ポンポン
—アール・デコのパリをめぐる—」

講師／群馬県立館林美術館 学芸係長 神尾玲子氏
日時／平成28年12月17日(土) 13:30～15:00
会場／講堂 定員／200名
聴講無料、先着順(当日12:30から受付)

ギャラリートーク

期間中の全日曜日と11月3日(木) 13:30～14:00
参加無料(入場料は必要)、事前申し込み不要

ワークショップ ①

「金属加工に挑戦～鍍金」

講師／千葉県立美術館 上席研究員 石倉亮治
日時／平成28年11月12日(土) 10:00～16:00
会場／アトリエ棟 定員／15名(16歳以上) 費用／1人1,500円
申込方法／往復はがきにワークショップ名・住所・氏名・電話番号を記入の上、県立美術館宛申し込み。1枚に1名、応募多数の場合は抽選。
申込締切／11月5日(土) 必着

ワークショップ ②

「粘土の不思議—小さな彫刻を作ろう—」

講師／千葉県立美術館 主任上席研究員 廣川政和
日時／平成29年1月7日(土) 13:00～15:00
会場／アトリエ棟 定員／親子10組(20名) 費用／一組1,000円
(一組は小学生または中学生1名と保護者1名)
申込方法／往復はがきにワークショップ名・住所・氏名・電話番号を記入の上、県立美術館宛申し込み。1枚に1名、応募多数の場合は抽選。
申込締切／11月30日(水) 必着

12月～4月の Art Collection

当館では、年間を4期に分けて展示を行っています。特に館所蔵作品については、アート・コレクションの名称で、収蔵作品を中心としたテーマを期ごとに設け、借用作品や県内若手作家の作品なども加えて、千葉県ゆかりの美術作品を紹介しています。12月からのアート・コレクションについて紹介します

木から生まれる物語

～現代作家藤田朋一と県美収蔵作家のコラボ展示～

平成28年12月17日(土)～平成29年3月20日(月・祝)

千葉県在住で若手の木工造形家藤田朋一の作品と、木を素材とする収蔵作品をコラボレーションした展示を行います。

藤田朋一は木工の技術を駆使した立体アート作品や、単管パイプを使った作品を制作しています。作品に共通するのは分割された部品を構造的に組み立てて完成に至るプラモデルのような要素があることです。鑑賞者に、



藤田朋一「さらば神仏判然令」
子供のころ、夢中になったプラモデル作りなどの感覚を提供することを大切にしています。木工の歴史や伝統的な造形を踏まえた上で、それを軽やかに超える「アート＝多様性」を提示します

北詰コレクション

メタルアートの世界

平成29年1月21日(土)～平成29年4月16日(日)

元METALART MUSEUM HIKARINOTANI 館長の北詰栄男氏が収集した、珠玉の近代金工作品のコレクションを紹介します。金属が作り出す様々なアートの魅力をお楽しみください。



香取秀真「鳳凰香炉」
北詰コレクション

◇コレクション名品展

平成29年1月21日(土)

～平成29年4月16日(日)

当館の収蔵作品の中から、国内外の近現代美術の名品を展示します。

◇近代洋画の先駆者 浅井忠 3

平成29年1月21日(土)～平成29年4月16日(日)

浅井忠のスケッチを中心に、浅井の対象をとらえる確かな技を紹介します。また、新収蔵作品も併せて展示します。

上半期の Art Collection から

ボン・ボヤージュ!

～千葉みなと旅客棧橋完成記念展～

平成28年4月16日(土)～7月3日(日)

当館所蔵の船や港に係わる作品や、千葉港の歴史に関連する資料を展示。中でも千葉県ゆかりの模型船作家、宮内晴美氏



展示風景

の船舶模型には注目が集まりました。また、千葉大学工学部デザイン学科小原研究室との連携で実現した、1930年代の豪華客船のポスターなどの展示は船旅への憧れを誘いました。

こどものための展覧会 海の不思議ないきもの

～造形作家 木暮奈津子の世界～

平成28年7月9日(土)～9月19日(月・祝)

この展覧会は、千葉県ゆかりの若手作家育成事業第1弾として企画しました。造形作家木暮奈津子の作る、新聞紙で出来た不思議でかわいらしい「海のいきもの」たち 1,700 点余を展示、小さいお子さんを連れたご家族にも多くおいでいただきました。

また、木暮奈津子さんを講師に迎えたワークショップも併せて開催。新聞紙から立体を作るという意外性も好評で、子供たちの自由な発想で生み出された不思議ないきものたちがいっぱい生まれました。



ワークショップを指導する木暮さん

実技講座

当館の活動の柱、「みる・かたる・つくる」のうち、「つくる」活動の一つとして、毎年県内の作家を講師に招き、実技講座を開催しています。今年度は予定している5講座の内、現在までに3講座を実施しました。平成29年2月には参加者の作品を紹介する「美術館とつুকろう展」を開催します。

【陶芸基礎】

6月～7月

マグカップを板作り、茶碗を紐作りで制作。片口を作る方も。花器は思い思いの形に。約10種の中から選んで釉がけし個性豊かな作品が。鈴木久美子先生の丁寧な御指導で講習会は笑顔いっぱいでした。



【ホリデーアート・蜜蝋版画】

7月



初めてこの技法に触れる方も、慣れていらっしゃる方も夢中の連続2日間の講座。計画性と即興性が必要な技法ですが、上田靖之先生のお話に聞き入り、画面と対話しながら見ごたえのある作品が完成しました。

【陶芸中級】

8月～9月

六角皿は白化粧を施し、和紙染。だみ筆からしみこむ呉須の青は焼き上がりが大変魅力的でした。陶箱は思い思いの形にし、下絵の具で絵付け。鈴木久美子先生に陶芸の奥深さを教えていただきました。



これからの実技講座予定

【金工】

11月15日～12月6日(全7日)

講師：平山記通先生 銅板の鍛金で初心者はカップ、経験者は好みの容器などを作ります。叩いて形作る鍛金の楽しさを味わえます。
会費14,000円。

【篆刻】

1月18日～3月1日(全4日)

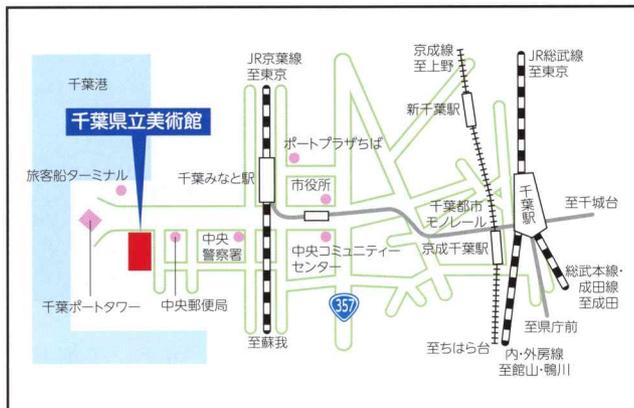
講師：那須大卿先生 こだわりの一文字を2つ、二文字を2つ、計4顆の作品をじっくりとつくりま
す。
会費9,000円
*詳しくはホームページを御覧になるか普及課 (043-242-8311) までお問い合わせください。

今年のワークショップから

今年度も、色々なワークショップを実施しています。写真は、スリットの入った円盤に8枚の連続する絵を描き、アニメーションを制作するワークショップ、「小さなアニメーションをつくろう！」(6月25日(土)開催)。模様や天候、自然現象などをテーマに、各自がそれぞれ工夫した作品を作りました。鏡に映して描いた絵が動くと思わず歓声があがりました。お互いの作品の鑑賞会も行ない、楽しい体験となりました。



作品鑑賞会



千葉県立美術館 〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1
Tel.043-242-8311 Fax.043-241-7880